

### 第3回高岡市総合交通戦略推進協議会議事録

日 時	令和3年2月24日（水）13:55～15:05
場 所	高岡市役所8階803会議室
出 席	<p>【委員16名中15名出席】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢大学名誉教授 高山純一</li> <li>・高岡市連合自治会長代理：副会長 角玄富雄</li> <li>・高岡商工会議所専務理事 西田隆文</li> <li>・西日本旅客鉄道(株)金沢支社企画課交通企画室長 鹿野剛史</li> <li>・あいの風とやま鉄道(株)常務取締役兼運輸部長 高野修</li> <li>・加越能バス(株)常務取締役自動車部長 草木健</li> <li>・万葉線(株)代表取締役専務 水上哲</li> <li>・富山県タクシー協会高岡ブロック会会長代理：高岡交通(株)取締役 川端徹</li> <li>・国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所長代理：事業対策官 折橋一禎</li> <li>・国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局長代理：首席運輸企画専門官 鴻島純</li> <li>・富山県観光・交通振興局総合交通政策室次長代理：主幹 若林修</li> <li>・富山県土木部都市計画課長代理：主幹 川上孝裕</li> <li>・富山県土木部高岡土木センター所長 坂井禎</li> <li>・富山県警察本部高岡警察署地域交通官 相山泰</li> <li>・高岡市市長政策部長 鶴谷俊幸</li> </ul> <p>【欠席】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省北陸地方整備局都市・住宅整備課長 東條旭</li> </ul>
事務局	高岡市市長政策部総合交通課：今方課長、松田主任
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 あいさつ</li> <li>2 座長選出</li> <li>3 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡市総合交通戦略の改訂版（案）について・・・資料1</li> </ul> </li> <li>4 その他</li> </ol>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡市総合交通戦略 改訂版（案）・・・・・・・・・・ 資料1</li> <li>・高岡市総合交通戦略 改訂版（案）の概要版・・・・・・・・参考</li> <li>・高岡市総合交通戦略の新旧対照表・・・・・・・・・・参考</li> <li>・配席図</li> <li>・委員名簿</li> </ul>
結 果	<p>高岡市総合交通戦略の改訂版（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「戦略3-3 サービス提供手法の改善」に天候不良など運行遅延・休止の情報提供の視点を追加することで高岡市総合交通戦略の改訂版は承認。修正内容については高山座長に一任。</li> </ul>

#### 1. あいさつ

- ・高岡市市長政策部部長鶴谷委員から開会のあいさつ

#### 2. 座長選出

- ・金沢大学名誉教授の高山委員を座長に選出

### 3. 協議概要

#### ・高岡市総合交通戦略の改訂版（案）について

##### 【事務局】

- ・戦略の改訂版（案）の内容説明【資料1および概要版】

##### 【富山県土木部高岡土木センター所長：坂井委員】

- ・評価指標について、戦略1②高速バス路線利用者数がH30年度の間評価値に対して、令和5年度の目標数値が下がっている。一方で、戦略3・戦略4の評価指標は令和2年度の間評価値に対して令和5年度の目標値が大きいと感じられる。目標値の根拠を教えてください。

##### 【事務局】

- ・目標値は平成25年度に策定した際に設定した数値となっている。コロナ禍など交通を取り巻く環境は大きく変化しているが、目標値は現状維持としたい。

##### 【高岡市市長政策部長：鶴谷委員】

- ・目標値についてはコロナ禍によって先が見通せない状況であるが、本戦略においては、今後2～3年をかけてコロナ禍以前の数値に戻していくことが重要と考えている。

##### 【富山県タクシー協会高岡ブロック会会長代理：高岡交通(株)川端取締役】

- ・タクシーを活用して万葉線やバス停に繋ぐ仕組みを構築したいと思っている。近年、PayPayの普及によりタクシーでもPayPayを導入しているが、他の交通事業者でもPayPayが利用できれば、乗り継ぎ利便性が高まると思う。他の交通事業者の考えをお聞かせいただきたい。

##### 【万葉線(株)代表取締役専務：水上委員】

- ・万葉線では運賃が一律ではないことから、利用者ごとにQRコードを読み取り→運賃入力→運転士が運賃を確認する手順が発生し、ワンマン運行である万葉線車内でのPayPay導入は難しいと考えている。万葉線では定期券購入など本社においてはPayPayが利用できる。
- ・一方で、ICカードの導入については、まずは車両の交流電源化が必要となることから、順次車両改造を進めているところである。車両改造が完了した後はICカードの導入検討を進めていくこととしている。

##### 【加越能バス(株)常務取締役自動車部長：草木委員】

- ・PayPayの担当者とも情報交換させていただいており、運賃が一律ではないバス等へのPayPay導入の研究も進んでいると聞いている。導入費との兼ね合いもあるが、決済時間や利用者・乗務員の負担などの課題もあることから、情報収集をしているところである。

##### 【西日本旅客鉄道(株)金沢支社企画課交通企画室長：鹿野委員】

- ・QRコード決済は導入していないが、ICカードICOCAを導入している。PayPayは決済までに時間を要すが、ICカードの場合は0.2秒で決済が完了するため、鉄道の特性である拠点間大量輸送においては利用者の移動円滑化の観点からICカードが適切と考えている。

##### 【あいの風とやま鉄道(株)常務取締役兼運輸部長：高野委員】

- ・JRとの相互利用による利便性向上のため、あいの風とやま鉄道においてもICカードICOCAを導入しており、昨年には券売機の機能向上によるIC利用拡大を進めている。今後、JRにおいてはモバイルICOCAを進められていくと伺っており、更なる利便性向上が期待される。

##### 【高山座長】

- ・ICTは日々進歩している中、普及が進んでいるスマートフォンが様々な場面で活用されると

思われる。そのような中、検索・予約・決済等を一括して提供するMa a Sの活用が考えられるが、技術進歩が先行する現代において、早い段階から検討会や勉強会を立ち上げた方が良い。

**【あいの風とやま鉄道(株)常務取締役兼運輸部長：高野委員】**

- ・Ma a Sについて富山市の状況になるが、トヨタと富山地方鉄道が主体となってサービス提供する「my route 富山版」が3月21日から開始される予定であり、Ma a Sの流れに乗り遅れないようあいの風とやま鉄道も参画させていただいている。システム自体は発展途上と聞いているが、将来的にはICカードのようなスムーズな決済を期待している。

**【高山座長】**

- ・Ma a Sは交通だけではなく様々な業種が関わってくるが、高野委員の意見のとおり、すべてが完成してから参入するのでは遅いため、できるところから小さく始め、そこから拡大・拡充していくことが重要である。

**【万葉線(株)代表取締役専務：水上委員】**

- ・公共交通の満足度を上げるためには、定時運行が一丁目一番地であると考えており、安定安全運行のためには関係機関との連携が必要である。例えば路面電車である万葉線は自動車との接触事故もあることから、運転免許証更新時におけるドライバーへの啓蒙など、関係機関と連携していくことが大事である。

**【高山座長】**

- ・事故や災害などの非常時の情報は利用者にとって重要であり、運行遅延や運休の情報を様々な形で提供するのが理想である。万葉線は位置情報を提供しているか？

**【万葉線(株)代表取締役専務：水上委員】**

- ・とやまロケーションシステムで1編成（ドラえもんトラム）のみ位置情報を提供しているが、その他の車両は対応していない。非常時の際はホームページ・ツイッターで情報提供しているが、すべての利用者が確認できる環境下にあるかは課題が残る。

**【高山座長】**

- ・戦略4-1-(1)モビリティ・マネジメントの実施とあるが、具体的には何をするのか？

**【事務局】**

- ・公共交通マップの作成やノーマイカー運動など、これまでも実施してきたものがあるが、現在、中田地区においては地元と相談しながら路線バスの利用促進の取り組みを進めている。

**【富山県土木部高岡土木センター所長：坂井委員】**

- ・高岡市では平成30年までコミュニティバスが運行していたが、市民からは地域の足として復活してほしいとの声は無かったのか？

**【事務局】**

- ・令和2年度に実施した市民アンケートではコミュニティバスの復活を望む声があった一方で、運行終了に至った経緯として、循環型バスであるがため目的地まで時間を要すことや本来の目的に沿わないルートとなったなど課題があった。戦略改訂にあたっては地域が主体となって運行する地域交通システムの導入により持続可能な交通体系の構築を目指している。

**【富山県土木部高岡土木センター所長：坂井委員】**

- ・高齢者の運転免許証返納など公共交通へシフトしようとする大きな流れにあると思うが、高齢者等はバス停まで歩くだけでも大変である。新潟などではバス停間隔が短いような印象を持つ

ており、既存のバス路線をもっと使いやすくし、利用者を増やすためには、バス停間隔を短く設定する観点も必要と感じる。

**【高山座長】**

- ・坂井委員の意見は重要な視点であると思う。バス停の設置にあたっては、設置場所に対する住民理解や行政手続き、目的地までの運行時間が長くなるなど難しい面もあるが、例えば快速バスの運行により運行時間を短くする工夫もある。

**【あいの風とやま鉄道(株)常務取締役兼運輸部長：高野委員】**

- ・公共交通の乗り方がわからないと言う方もいることから、公共交通を利用する機会を増やすためにも引き続きノーマイカーデーは推進して行ってほしい。

**【高岡市連合自治会長代理：角玄副会長】**

- ・本戦略は常時における内容になっていると思うが、今般の大雪のような非常時の視点も重要だと思う。

**【西日本旅客鉄道(株)金沢支社企画課交通企画室長：鹿野委員】**

- ・今般の大雪では想定以上の降雪により運休等が発生し、利用者の皆様に大変ご迷惑をお掛けした。列車の遅延や運休など事前に情報提供できるよう引き続き努めていきたい。
- ・コロナ禍によって新幹線等も含めて大きなダメージを受けている中、GoTo キャンペーン等により10月は対前年70%まで戻ったが、1月は対前年26%、2月は対前年27%と大変厳しい状況で推移している。先日の社長会見でもあったように、新幹線で得た利益で地域交通を応援していくというスキームが成り立ちづらくなってきている中、当地、高岡市では城端線・氷見線の将来に向けた検討も含めて力添えをいただいているところであり、ぜひ地域の皆様と一緒に持続可能な公共交通を築いていきたい。

**【高山座長】**

- ・コロナ禍によって公共交通事業の存続が危惧される中、各交通事業者は減便などの対応で経営を維持している。しかし、減便等による利用者サービスの低下が断続的に続くと利用者が戻ってこない惧れもある。各公共交通事業者においてはコロナ禍で大変な状況ではあるが利用者サービスの維持に尽力いただきたい。
- ・最後に戦略改訂版(案)の承認について皆様にお諮りするところではあるが、本日いただいた意見を踏まえ、戦略改訂版には災害時対応の視点を加えた方が良いと思われる。

**【事務局】**

- ・「戦略3-3 サービス提供手法の改善」に天候不良など運行遅延・休止の情報提供の視点を追加することとしたい。

**【高山座長】**

- ・微調整ということで座長に最終確認を一任いただき、高岡市総合交通戦略の改訂版(案)は承認したいと思うがよろしいか？

⇒委員からの異議は無く高岡市総合交通戦略の改訂版(案)は承認

以上